

# 古き伝統から新たな発見の旅路へ



早稲田大学大学院公共経営研究科  
グループA

# 今回のプレゼンテーションの流れ



1. マニフェストの検証
2. 問題意識及び方向性
3. 現地調査等
4. 課題の解決に向けた施策(提言)
5. 施策の具体的な説明等
6. まとめ

# マニフェスト「文化都市づくり宣言」の検証



文化の薫る「みよし」の創造

芸術文化発信拠点  
の整備

歴史・文化資源を活か  
したまちづくりの推進

質の高い芸術文化の  
推進

・新たな文化拠点として「奥田元宋・小田女美術館」の開館  
・各地区で「まちづくりビジョン」の策定・実施

行政の  
支援

様々な施策を展開しているが、古くからある文化資源を  
本当に活かしているのだろうか・・・「休眠文化財」の存在は？

# 休眠文化財とは？

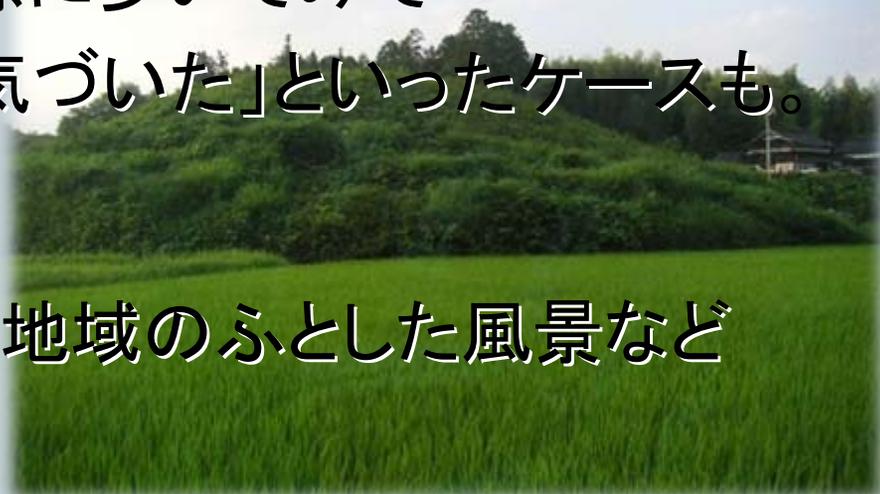


## ■ 休眠文化財

一部の地域では存在が認知されているものの、  
全市的な有効活用がそれほど進んでいない文化財。  
場合によっては、地域内で認知されていないものもある。  
→ 「よく車では通るが、実際に歩いてみて  
存在に始めて気づいた」といったケースも。

## ■ 代表例

古墳、史跡、山野草、景観、地域のふとした風景など



# 我々の問題意識



- 休眠文化財の認知向上及び有効活用は可能か？
- 一部の地域内での取り組みにとどまり、全市的な取り組みに発展していないのではないか？
- 各地域間の交流を図ることも有効ではないか？



休眠文化財に光を当てるためには、先導的な地域の取り組みを全市的に水平展開する必要がある。

# 問題意識に対する方向性



- 文化財に対する認知度向上

  - 三次のイメージの確立、市民意識の向上

- 各地域間のネットワークの確立

- 他分野とのコラボレーション(付加価値)

  - (例 健康への意識高揚(ウォーキング・ジョギング等))

# 現況調査等について



- 文化財  
教育委員会社会教育室
- 地域まちづくりビジョン  
布野町「ふの まちづくりビジョン」  
川西町「まめな川西 いつわの里づくりビジョン」
- 街頭インタビュー
- 施設・文化財の見学  
みよし風土記の丘・広島県立歴史民俗資料館  
中村憲吉生家  
出雲街道と藩政時代の国境の碑  
奥田元宋・小田女美術館等



# 文化財の現況について



## ◎ 指定区分別文化財：教育委員会社会教育室調べ

種別による分類		国	県	市	全体
重要文化財	建造物	3	4	18	25
	美術工芸品・考古資料	1	22	61	84
記念物	史跡	5	14	27	46
	名勝		1	1	2
	天然記念物	1	16	61	78
無形文化財	無形文化財	0	1	2	3
民族文化財	無形民俗文化財	0	2	12	14
	無形民俗文化財	1	0	8	9
登録文化財		2	0	0	2
合 計		13	60	190	263

# 布野町「ふの まちづくりビジョン」の聞き取り



## ■ ヒアリング：布野町まちづくり連合会

- ・ 「オール布野」での取り組みを目指している
- ・ 旧出雲街道のウォーキングコース整備
- ・ 「国境の碑」の移設事業、コース看板の設置
- ・ 自治組織と地域内ボランティアによる主体的取り組み



# 川西町「まめな川西 いつわの里」づくりビジョン



## ■ ヒアリング：川西自治連合会

- ・『ふるさとの「宝」を「堀起資磨（ほりおこしま）」しよう』
- ・長年にわたる「歩こう会」の開催
- ・神社や溜池、郷倉を巡るルート、古墳を目指すルートなど
- ・地域の体育振興会、郷土史研究会らがガイド役として参加



# 三次市民アンケートの概要



調査日：2007年8月2日

場所：三次市役所周辺とサングリーン（商業施設）

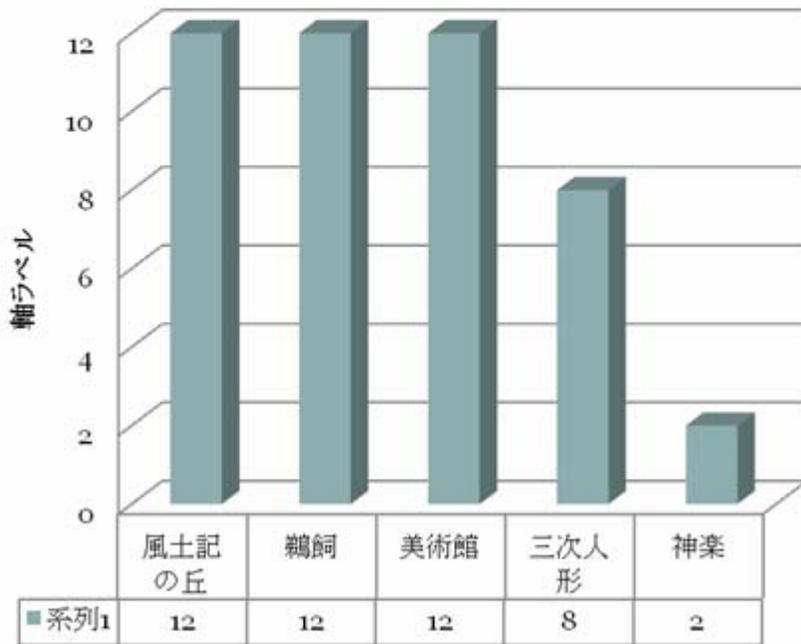
調査方法：在住者や買い物客に対する聞き取り。

調査の内容：三次市の文化財に関する認知度や関心、ウォーキングイベントに対する関心度など、計10項目を調査した。

回答者数：合計50人。内訳は男21、女29人。  
このうち旧三次市出身が38人を占める。

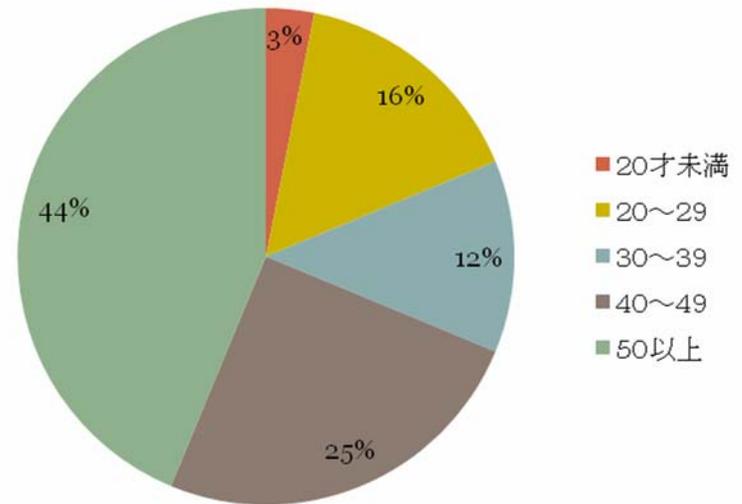
# 三次市民アンケートの結果

## Q 三次を代表する文化財は何か



シンボリックな文化財は存在するが、それだけが三次の文化財ではない。

## 年齢別ウォーキング参加希望者



三次市の年齢構成を踏まえれば、高齢層に受け入れられやすいイベントが有効。

# 問題意識・課題・方向性等の整理



休眠文化財

問題意識

認知度不足？  
位置づけは？

地域間の繋がり？

有効利用  
(単体)？

方向性等

認知度向上

各地域間のネット  
ワークの確立

付加価値による向上

市民意識  
の向上

イメージの  
確立

地域交流

他分野との  
コラボレーション

健康志向

景観

# 課題の解決に向けた施策(提言)



(仮)三次ウォーク構想

# (仮)三次ウォークの概要 ①



## ■ 開催主旨

- ① 文化財を巡ることで、“まだ知らない三次”を知る機会
- ② 合併後の三次市の人と人を結ぶことで、地域を結ぶ
- ③ 誰もが参加できるウォーキングを通じて健康増進を促す

三次市の文化財(史跡・古墳など)を道でつないだコースを設定して、年数回のウォーキングイベントを開催する。

## ■ イベント内容

コース内のチェックポイント(文化財、史跡)を歩いて回る

## (仮)三次ウォークの概要 ②



- **開催時期**: 6月、11月(農繁期の関係と気候的な側面)  
→年間に複数実施。三次市の各地域で開催。
- **イベント運営**  
各地区参加の実行委員会とボランティアガイドが運営、  
市プロジェクトチームが調整役とPRをそれぞれ担当する。
- **イベント報告**  
コース、イベントの様様を広報紙・ウェブなどで公開・発信  
イベントのコース内容をマップとして保存

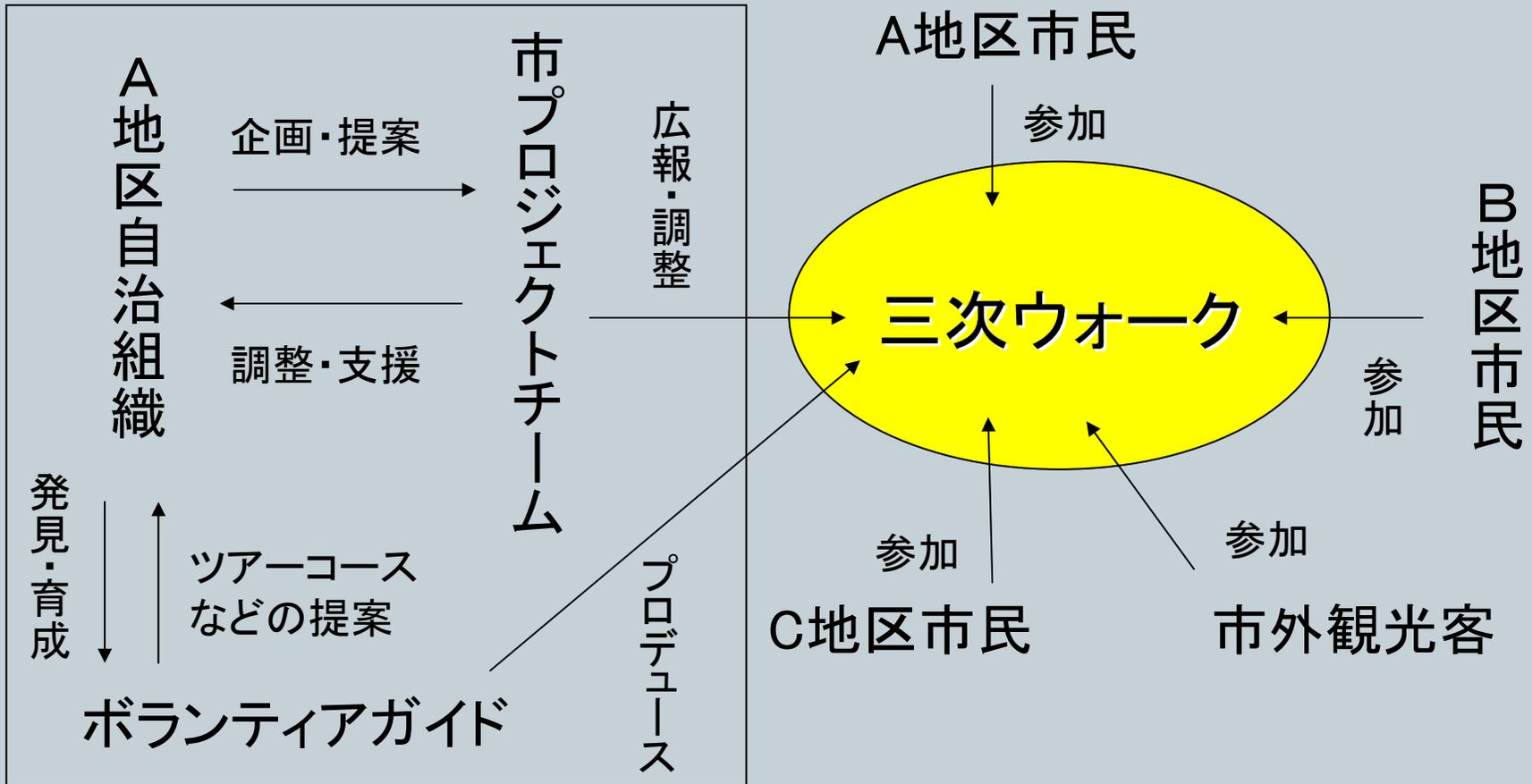
# 三次ウォークに向けてのアクションプラン



1. 市役所内に「休眠文化財プロジェクト」チームを設置
2. 実行委員会の設立
3. 各地域による観光ボランティアの発掘・育成
4. プロデュース
  - イベントの打合せ
  - イベント開催に向けた市全体への情報発信・PR
  - イベント運営のための道・文化財・人材の整備
  - 各地区のネットワークの構築

# 各アクターの役割分担

## 実行委員会



# 三次ウォークで期待される効果



多様な効果が期待できる

地域文化財を点で結ぶ  
三次ウォークイベント  
各地区で定期開催

有効活用

文化財に対する認知度の向上

地域資源を活用したまちづくり機運の高まり

つながり

自治組織間、地域間ネットワークの強化

地域を越えた市民交流による一体感の醸成

発見・気づき

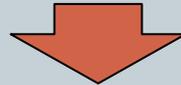
“まだ知らない三次”の発見

健康づくり機運の高まり

# まとめ

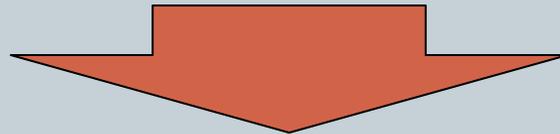


「休眠文化財」にも光を当て、地域資源を再認識  
「三次ウォーク」で、地域間交流と健康作りも促進



三次の地域資源に対する

全市的・普遍的な共通認識



歴史・文化資源を活かした

まちづくりの実現